

# 論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 56 号

2015 (平成27) 年10月17日 (土)

そこ まど よこ まど てん まど  
底 窓・横 窓・天 窓

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

ある作家が、人間には三つの窓が必要であると述べていました。

底 窓・・・自分の足元を見る窓で、自分をしっかり見つめようという意味。

横 窓・・・自分の横を見る窓で、自分を取り巻く友達や隣人や親戚の人を見つめようという意味。

天 窓・・・自分の上を見る窓。これは、こう生きるのだと自分の高い理想を見つめようという意味。

素晴らしい考え方です。人は誰でも自分のことを考える底窓は、どうか持っています。(勿論、一番大切な窓かも知れません)しかし、横窓は持っているでしょうか。自分のことだけを考えてはいないでしょうか。人はどうでもよい。友達も親も。そういう人は、横窓を持っていない人です。

ところで、天窓はどうでしょう。人間が動物と違うのは、まさしくこの天窓を持てるかどうかということなのです。自分の中に高い理想を持ち、自分のこと、友達のこと、両親のことを超えた、更に広くて高い理想。つまり、たくさんの人に役立つ人間。人に影響を与えることのできるスケールの大きい人間になれるかどうか。

人間の中で最も価値の高いものがあるとすれば、この天窓を持てるかどうかではないかと思います。

塾生の皆さんは、どうでしょうか。

「人生は努力の過程である。努力することに意味があるのだ。たとえ失敗しても良いではないか。再度、挑戦すればよい」初めて日本の国民栄誉賞を受賞した王貞治氏の言葉です。

人間は何のために努力するのでしょうか。そうです。自分が持つ「天窓」のためです。そして、たとえその過程において失敗したとしても、天窓を持っている限り、人は限りなく成長していけるのだと思うのです。

## ◆「ちょっと良い話」コーナー

塾生の街道花さん・夢さん(千歳市立高台小6年・5年)姉妹が、8月下旬東京で開催されたピアノコンクール「ピティナ・ピアノコンペティション全国大会」に出場し、デュオ部門の連弾に28組が出場した中で、道内勢では最高の銅賞を受賞しました。心から拍手を送りたいと思います。

(北海道新聞に写真入りで大きく掲載されました。)

## 第5回 懇談会 有意義且つ盛会裏に終了

9月19日(土)の論語塾で「第5回懇談会」が大波僧侶を始め44名の塾生・保護者参加のもと約1時間に渡って行われました。高島世話人会代表の司会で進められ、参加者全員が忌憚のない意見・要望を出してくれました。坐禅に関しては、大波僧侶より「坐禅はただ座るだけ。呼吸をして雑念を一つにまとめて消していく。頭をからっぽにしてボーッとしてみることでよいのです。」とのお話がありました。心したいものです。

スペースの関係上、要望のみを掲載しますことご了承下さい。

- できれば宿題を出してほしい。学ぶ機会が増え、教えてもらったことを日常生活にも活かしたいので。
- 論語を通して道徳教育を学ばせたいので、どんな時にどんな章句が役立っているかを教えてほしい。
- 可能なら夏休みにでも、論語三昧・坐禅三昧ができれば素晴らしいと思っているのですが。
- 論語は概念的な教えなので、現状に合わせ事例を含めての学習であれば、なお良いと思うのですが。
- 参加して1年経ちましたが、塾が始まった頃の「論語教室だより」をもらえる嬉しいのですが。
- 年に一度、お弁当でも食べながら交流できると楽しいと思うのですが。

貴重な要望ですので真摯に受け止めたいと思っています。参加された皆様方に心より感謝申し上げます。